

八戸圏域における『コンテンツ×モビリティ』の共創人材育成事業

応募様式A

特定非営利活動法人まちもびデザイン

事業の基礎情報

事業実施地域	八戸圏域（八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村・おいらせ町）
人材育成の対象	乗合事業者（バス・タクシー）、自治体職員（交通政策・観光・商工担当）、DMO、まちづくり会社 等
人材育成の手法	専門家によるセミナー（共創先進事例、データ検証方法）、ワークショップ（課題抽出、学びの落とし込み）、OJT（バス可視化データ等の分析）、共創ハンドブック作成（共創人材育成・共創事業手順の具体化）
人材育成の内容	共創の必要性を深く理解すると共に、地域課題に応じた仮説設定とデータ分析による対応策検討のスキルを習得し、「交通×観光×まち」の共創事業を構想・実践できる人材を育成する
想定育成人数	延べ100人程度 ※ワークショップ20人×4回（セミナー同時開催2回含む）。OJT3人×3事業者×2回

取組の概要

（現状の地域課題と事業目的）

地域課題

- R5年度に交通系ICカードデータの可視化ツールができたが、データの分析・活用をできる人材が育っていない。
- R5年度に続き、交通×観光×まちといった『コンテンツ×モビリティ』の共創事業強化が必要。

事業目的

- 交通系ICカード等のデータを活用し、課題→仮説→データ検証→対策検討のフローを身に付けた人材を増やす。
- 分野横断的に課題の議論、データ活用、対策検討を行うことで、共創が生まれる素地を作る。
- 『八戸圏域版共創ハンドブック』を作成し、共創人材の持続的な育成指針と共創事業の具体的な進め方を明確にする。

（事業の概要）

【対象となる分野・属性】 交通セクション（事業者・行政）と、まち・観光セクション（DMO・まち会社行政）の職員

【育成の手法と内容】 ①セミナー：専門知識の獲得 ②ワークショップ：課題・仮説・学びの共有 ③OJT：データ取扱
④ハンドブック作成：共創イメージの具体化と役割分担

【修得スキル】 分野横断的に課題抽出・仮説策定・検証ができるスキル／データに基づいた議論・検討ができるスキル／共創への理解

八戸圏域における『コンテンツ×モビリティ』の共創人材育成事業

応募様式A

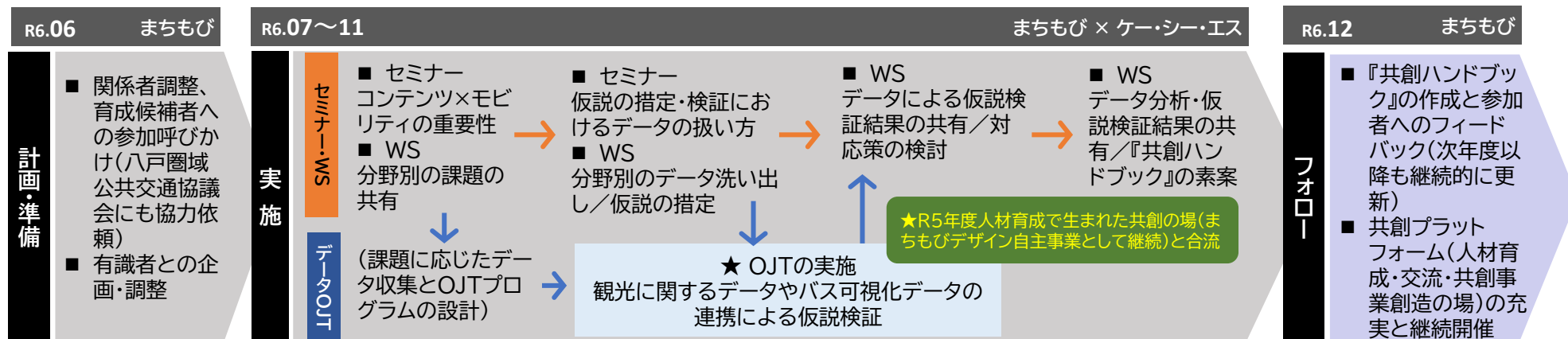
特定非営利活動法人まちもびデザイン

取組の詳細

(事業により見込まれる効果)

- 協働でデータを扱うことで、データリテラシーの向上に加え、エビデンスに基づいた政策立案や、分野横断的な共通認識に基づいた官・官民・民の共創プロジェクトの構築ができる。
- 共創事業を考え、実行できる人材が育ち、その人材やアイデアが集う『場』が充実する。
 - ➔ アウトプット① 『八戸圏域版共創ハンドブック』により、共創の必要性や具体例、進め方の手順などが持続的に共有される。
 - ➔ アウトプット② R5年度に生まれた分野横断型の『場』が発展することで、政策・ビジネス共に共創事業が加速する。
 - ➔ アウトプット③ 交通系ICカード等のデータをエビデンスとした、交通×まち×観光の共創事業が加速する。
 - ➔ アウトプット④ 既存バスパックの磨き上げや販売促進が進み、観光消費額の増加・バス運賃の収入が増加する。

(事業実施手順・スケジュール) ※連携事業者：株式会社ケー・シー・エス東北事務所



(補助事業実施後の予定)

- 共創プラットフォームの持続・発展：当法人の自主事業として、交通×まち×観光の共創人材ネットワークを生み出す場づくり『まちもびサロン(仮)』を継続開催
- 共創プロジェクトの実現性：行政・事業者がそれぞれの予算で相補的な事業を企画・実施することで、地域が一体となった共創プロジェクトを創出。将来的には、各分野からの供出による共創資金の構築を目指す。